

## 会 議 録

会議名		平成30年度第1回相模原市障害者自立支援協議会		
事務局 (担当課)		相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園 電話 042-758-2121		
開催日時		平成30年7月31日(火)午後3時~午後5時		
開催場所		障害者支援センター松が丘園3階・研修室		
出席者	委員	出席 18人 欠席 4人		
	その他			
	事務局	5人 市：障害政策課 1人 社会福祉事業団：常務理事 生活相談課長 他2人		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 研修について (2) 各部会報告 ア 権利擁護・虐待防止検討部会 イ 相談支援事業所等連絡・調整部会 ウ 相談支援技術向上部会 (3) その他 3 事務連絡 4 閉会		

平成30年度第1回相模原市障害者自立支援協会委員名簿及び出欠状況

No	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長 (やまびこ工房 施設長)	なかじま ひろゆき 中島 博幸	出
2		相模原市障害福祉事業所協会 総務(福) らっく 理事長)	すずき すみえ 鈴木 純恵	出
3		相模原市障害福祉事業所協会 総務 (くりのみ学園 施設長)	いまい やすのり 今井 康雅	出
4		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会長	おの あきこ 小野 明子	欠
5		(福)相模原市社会福祉協議会 福祉推進課長	たどころ まさし 田所 雅	出
6		相模原福祉オンブズマンネットワーク スーパーバイズオンブズマン	きづ よしえ 木津 芳江	出
7		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	さが じゅんじ 佐賀 淳司	出
8	指定相談支援事業者	橋本障害者地域活動支援センター ぷらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
9		子ども相談支援リボン (NPO法人ワンダートンネル理事長)	ちや ふみこ 千谷 史子	出
10	障害者等及び その家族	(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 副会長	はねだ ひさし 羽田 彌	欠
11		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	しまもり まさこ 島森 政子	出
12		(特非)相模原市障害児者福祉団体連絡 協議会 理事	かたおか かよこ 片岡 加代子	欠
13	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会 (北里大学東病院医療ソーシャルワーカー)	だいなか たく 提中 拓	出
14	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 総括教諭	のざき まゆみ 埜崎 真弓	出
15		教育局学校教育課担当課長	みやはら さちお 宮原 幸雄	出
16	関係行政機関の職員	健康福祉局福祉部障害政策課長	あしの たく 芦野 拓	欠
17		健康福祉局福祉部精神保健福祉センター 所長	ししくら くりえ 宍倉 久里江	出
18		健康福祉局福祉部南障害福祉相談課長	いしづか さちこ 石塚 祥子	出
19		こども・若者未来局陽光園主幹(兼)療育相 談室長(兼)発達障害支援センター所長	なかじま しげゆき 中嶋 成享	出
20		こども・若者未来局南子育て支援センタ ー所長	すずき ようこ 鈴木 葉子	出
21		こども・若者未来局児童相談所 総括副主幹	あきま ゆたか 秋間 裕	出
22	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

## 審 議 経 過

主な内容は次の通り。

### 1 開会

### 2 会長挨拶

(新委員紹介)

- ・相模原福祉オンブズマンネットワーク 木津氏
- ・相模原中央支援学校 埜崎氏
- ・学校教育課 宮原氏
- ・こども・若者未来局南子育て支援センター 鈴木氏

### 3 議 題 ( は会長、 は副会長、 は委員、 は部会長、 は事務局の発言 )

#### (1)研修について

資料を基に説明した。

「福祉と教育の連携」をテーマに研修を実施する予定と説明した。

#### (2)各部会報告

##### ア 権利擁護・虐待防止検討部会

資料を基に説明した。

(意見交換)

##### 【グループホーム職員の人材育成】

市内グループホームの現状として、福祉以外の業種からの参入が増加している。支援の主力は世話人が担っているが、主婦層が多く、障害に理解がない方もいる。世話人をどのように教育していくのかが課題である。相模原市障害福祉事業所協会では世話人向けの研修を実施しているが、権利擁護・虐待防止検討部会での取り組み状況はどのようになっているのか。研修の周知先として、市内グループホーム数等は把握しているのか。

部会においても、現場での支援が課題に挙がっている。部会の取り組みとしては管理者向けに権利擁護、虐待防止の取り組み状況を把握するためのアンケートを実施し、「現場職員の横のつながり」が必要であるとの結果を受けて意見があり、グループホーム職員向けの意見交換会を実施した。

市内で指定されているグループホームは把握している。

権利擁護の視点からオンブズマンネットワークの活動紹介があった。

支援現場の現状は大変であると察する。本人との意思の食い違いから、互いに感情的になることもあるのではないかと。本人を理解していくこと、知ることが大切である。障害理解を深めるための研修を実施したらどうか。

##### 【親へのアプローチ】

権利擁護・虐待防止検討部会に知的障害者の親をメンバーに入れたらどうか。れんきょうでは「お互いの障害を知る会」を開催している。その会では、世話人の知識不足が課題にあがっている。虐待が起こる背景には支援者の困り感があるのではないか。

虐待をした親、発達障害の子をもつ親も子に対してどのように接したらいいのかが分からないことが多い。子は親から褒められないため自己肯定感が低い。親は怒鳴ったらわかるだろうと接し、障害、本人の理解が乏しい。親の理解を高めるにはどうしたらいいのかということも課題である。

#### 【医療との連携】

グループホームでの世話人の対応については医療機関のソーシャルワーカーに相談することも一つの方法ではないか。

### イ 相談支援事業所等連絡調整部会

資料を基に報告した。

(意見交換)

#### 【教育と福祉の連携】

教育関係者の参加が促進されることを期待する。

個別支援検討連絡会(児童)では、こども主体の相談支援をテーマに事例検討を実施している。児童から成人期まで様々な支援があり、どのように支援を繋げていくか、ということがテーマである。青年期支援体制検討プロジェクトチームもこの課題が出発点との認識である。進捗状況を伺いたい。

現状では福祉と教育の連携が進んでいないと認識している。研修に期待する。

研修に関して、学校の先生は参加できる時間が限られている

学校の先生に発達障害の理解が深まる機会があるとよい。

教育は激動の時期である。現在のこどもが大人になってどのように生きていけるかが課題である。こどもは未来を見ているが教師は在籍している短期間での様子しか見ていない。中学への繋がり、高校への繋がり等、連携が大事である。15歳程度から将来像を見据えるためにはキャリア教育が必要である。

福祉と教育の連携については、互いの機関の役割を知り、学校の教師をどう巻き込んでいくかが大事である。特別支援学校で研修会を開催したが、教師の参加は少なかった。発信の方法を検討する必要があった。

#### 【送迎】

高齢分野でも送迎が課題になっている。津久井地区での取り組みを注視する。

川崎市では高齢者施設の送迎車を空き時間に開放している事例がある。

津久井地区の送迎の課題については、地域力が大事である。親をサポートする家族会等、地域を支える資源があるとよい。行政だけに求めるのは難しい。どのように地域力を高めるかが課題である。

地域力は国でも課題としている。専門家としてどのように地域と向け合えばいいのかと問われている時期ではないか。地域と一体化して取り組むいい機会と思われる。

当事者、家族が障害を受け止め、地域に理解をしてもらうために、発信することが必要である。障害をカミングアウトして損することがないように、地域の見守りがあることを伝えていることが大事である。カミングアウトす

る勇気をどのように支援していくのが課題である。

家族会の力を活用したらどうか。

【その他】

サービス等社会資源が不足しているため、不足している点には施策提言したらどうか。南地区の取り組みを注視する。

地域生活支援拠点については基盤整備の進捗状況を注視する。重度心身障害児者、施設入所が難しい方の支援をどのようにするのか。

協議会で検討されているテーマは多岐に渡り、大事なテーマであるが、障害分野が様々であるが異なるようで、全てが繋がっているのではないかと。厚生労働省ではひきこもり、依存症に続いて、産後のメンタルヘルスの計画がある。行政間の連携が必要であり、行政の担当課が決まらない課題がある。ひきこもり支援では、ケースバイケースでマニュアル化できないことがあるため、常に課題意識を持ち、取り組んでいる。目的が同じであっても、立ち回り方が異なることで対立するのではなく、共有していくことで様々な支援の選択肢が増えていくとよい。

秋田県のひきこもり事業で大勢の当事者が就労できた好事例がある。

ひきこもりは本人、家族が批判にさらされることが多い。少しの変化でも、よいこともある。就労の場は必要であるが、就労以外でも本人が安心できる場を見つけていけるとよいのではないかと。

ウ 相談支援技術向上部会

資料を基に報告した。

(意見交換)

【意思決定支援】

意思決定支援は津久井やまゆり園での取り組みが進んでいるため、実際の支援事例も視野に検討したらどうか。

意思決定支援については、相談支援事業所、サービス管理責任者等がひとりひとりに対して会議を開催し、グループホームに移行した。本人の表情、言葉、行動を丁寧に観察し、支援の方向性を検討している。(津久井やまゆり園の取り組みの紹介)

3 事務連絡

・基幹相談支援センター等活動報告

・次回開催 平成30年10月30日(火)午後1時30分～  
障害者支援センター松が丘園

4 閉会

本日の協議内容から、自施設を利用している方には「ゆっくり過ごしてください」と思いがちであるが、日中活動だけではなく、地域交流を意識して支援していくことが大切であると感じた。

津久井やまゆり園での事件から2年が経過した。今後、津久井やまゆり園の職員とどのような方向性をもって支援するのかを一緒に考え、関わりを持っていく必要性を感じた。

以上